

ボナンタゴン

アピカホールから
あなたに

Vol.68

2013.4月-6月



日下 紗矢子さん

ベルリン・コンツェルトハウス室内オーケストラの皆さん

第22回

アピカ・フレッシュコンサート

四月二十二日開催

しばてくらコンサート

第123回

ベルリン・コンツェルトハウス
室内オーケストラ

七月五日開催

■寄稿

日下 紗矢子

アピカ弦楽

アンサンブル教室

ワークショップ

八月四日開催

うかわ先生の
おんがく談義

音楽の話輪和 Wa

スポーツと音楽
そして私

■文化事業一覧表(別紙)

西脇市立音楽ホール

Aplika
アピカホール

7月5日(金) 第123回しばざくらコンサート

ベルリン・コンツェルトハウス室内オーケストラ

～日下紗矢子/コンサートマスター & ヴァイオリン独奏～

室内オーケストラの魅力をお届けしたい

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団 第1コンサートマスター 日下 紗矢子

皆様、初めまして。この度7月5日に私がリーダーを務めるベルリン・コンツェルトハウス室内オーケストラのコンサートがアピカホールにて行われることになり、メンバー一同大変楽しみにしております。

私達のグループは、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団（旧ベルリン交響楽団）のメンバーから成り立っています。オーケストラ奏者はいつもボス（＝指揮者）の下で演奏をするのですが、“指揮者の言われた通りにだけ演奏しているのはつまらない！自分達だけで音楽を作り楽しみたい！”という欲求を次第に持ち始める奏者も少なからずいて、この室内オーケストラも、自分達でボスやプログラムを決め、そして音楽を作っていきたいという願いの下、設立されました。

そんな彼らのボス役になった私ですが、その役目というのは指揮者とコンサートマスターを同時にするという、音楽家としての教養と経験が非常に問われるものでした。みんな音楽を作り上げるといっても、ボスである私が主に指示を出していくので、私がどのような音楽を目指すのか、はっきりと打ち出していかなければ、メンバーは路頭に迷うことになります。そんなことにならないよう、リハーサルが始まる前までに、全ての楽譜に細かな指示を書き込んでおいたり、全部のパートが載っているスコアを見て勉強します。そして、いざリハーサルとなると、全部のパートの音を瞬時に聴いて、何がおかしいのか、

どうしたら良くなるのか・・・といったことを、自分も弾きながら考えなくてははいけません。決して一筋縄ではいかない役目ではありますが、少しずつ活躍の場が広がり、今回このように日本ツアーまでさせて頂けることになり、メンバー一同、ますます張り切っております。ドイツ人にとって日本といえばまず“お寿司”ですので、演奏以外の楽しみもあるのですが、“休暇じゃないから！”と釘をさしてくれるメンバーもいて頼もしい限りです。例えば、東京の芸大を卒業してからアメリカに渡り、その後ドイツに來ましたが、その時はこのようにドイツで職を得て活動をするようになるなど思いもしませんでした。今は“仲間”という意識を持てる演奏家と一緒に音楽を作り上げられることに日々感謝しています。

今回演奏する曲目は、室内オーケストラの魅力を存分にお伝え出来るものです。各楽章がそれぞれの魅力に満ち溢れたチャイコフスキーのセレナーデはもちろんですが、怪しげな美しさとその中に秘めた情熱が魅力でもあるフィンランドの作曲家ラウタヴァーラの作品、そしてバッハ以前に生きたビーバーという作曲家が作った驚くべき斬新な音楽が繰り広げられるバッターリア（戦闘）・・・初めから最後まで、皆様に素敵な驚きと感動をお届けできればと願っております。

7月5日、会場にて皆様にお会い出来るのを心待ちにしています！

4拍子そろった!!演奏会

～日下紗矢子率いるベルリン・コンツェルトハウス室内オーケストラ～

編集委員 鵜川 真

「たまにはクラシックの音楽会に行ってみたいと思うのですが、何か良い演奏会はないでしょうか？」——よく聞かれる質問なのですが、返答に窮することが多いのが実情です。

演奏は良くても曲目が一般向けではなかったり、演奏と曲目の2拍子はそろっていても、ホールの響きが悪くて感銘が薄れてしまったり、あるいは、入場料が高すぎたり……といった具合に、〈良い演奏〉、〈聴いて楽しめる曲目〉、〈響きの良いホール〉、〈手頃な価格〉の4拍子のそろった演奏会には、めったに出くわせないのがふつうだからです。

ところが、このたび、私の悩みを吹き飛ばしてくれるような演奏会が、7月5日に、ここアピカホールで開かれることになりました。ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団の13人の選抜メンバーからなる〈ベルリン・コンツェルトハウス室内オーケストラ〉の演奏会です。

「ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団といわれても、そんな名前のオーケストラはこれまで聞いたことがないなあ。多分、それほどたいしたオーケストラではないのだろう……」といった声がどこからか聞こえてきそうですね。しかし、それは、とんでもない誤解です。このオーケストラは、2006年にこの名称に変更される以前は〈ベルリン交響楽団〉という名称で活動していて、巨匠クルト・ザンデルリンクの指揮のもと、数多くのCDを出したり、来日公演も行っている名門オーケストラなのです。確か1974年の来日公演のときだったとおもうのですが、私自身、大阪のフェスティバルホールで、このコンビによるブルックナーの交響曲第4番「ロマンティック」の熱演を聴いたことがあります。

数年前、榎本大進さんがウィーン・フィルと並ぶ世界最高のオーケストラであるベルリン・フィルの第1コンサートマスターに就任して大きな話題となりました。そのベルリン・フィルに対抗するために、旧東ドイツが1952年に創設したのがベルリン交響楽団でした。

そして、2008年に、この名門オーケストラの第1コンサートマスターに、日下紗矢子さんが就任したのです。旧西ベルリンを代表するベルリン・フィル、旧東ベルリンを代表するベルリン交響楽団（現ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団）、そのいずれにも、日本人が第1コンサートマスターを務めるという快挙が成しとげられました。榎本さんと日下さん、このお二人には、奇しくも生まれ年が同じである（1979年）ということの他にも、ドイツのフライブルク音楽大学でベルリン・フィルの元コンサートマスター、ライナー・クスマウル教授に師事されたという共通点があります。

今回の曲目は、J.S.バッハ、ヘンデル、チャイコフスキーといった大作曲家たちの傑作ぞろいですが、共通しているのは、美しく、親しみやすいメロディーが次から次へと登場してくることです。それに加えて、13人の巧者たちの合奏による分厚い響きと、精緻なアンサンブルの妙技。ふだん、あまりクラシック音楽に聴き慣れていない方にも、「音楽って良いものだなあ……!!」と感嘆の声をあげていただけるだろうこと必定です。

〈演奏〉、〈曲目〉、〈ホールの響き〉、〈入場料〉の4拍子がめずらしくそろった（とおぼしき）この演奏会、どうかお聴き逃しなく!!

4月21日(日)

第22回「アピカ・フレッシュコンサート」

フレッシュコンサートに出演して

西山 玲加 (第21回出演)

私は、第21回アピカ・フレッシュコンサートに出演させていただきました。当時の写真やDVDなどを振り返り見てみると、とても懐かしく感じます。当時、お世話になりました関係者の皆様、ありがとうございます。

私は、大阪音楽大学で4年間、音楽をはじめ様々なことを学んできました。その学んだことを披露する場合は、大学のホールや、大阪、神戸が多く、なかなか地元の西脇市で演奏することがなく、このフレッシュコンサートに出演したのが、西脇市で演奏する初めての舞台でした。その初舞台をアピカホールという素晴らしいホールで演奏できたことを嬉しく思います。西脇市には、これまでにお世話になった方々がたくさんいます。その方々に、私の大好きな音楽でクラリネットで表現し、感謝の気持ちを伝えようと演奏したことを覚えています。

現在は、中学校の音楽科教諭として、子供たちに音楽の楽しさや、良さなどを教えています。

学ぶ立場から教える立場に変わりましたが、新たに気付くことや、子供たちから学ぶことが沢山あり、それが新たな音楽の感性へと変わっています。また、その感性を、仲間と共に、カフェや教会、自宅などで演奏をし深めています。昨年の7月にはエーデルささゆりの教会でも演奏させていただきました。更に音楽の幅を広げようと新たにJazzを学んでいます。教諭として、奏者として、一人でも多くの方の心に響くような指導や演奏ができればと思っています。また西脇市でも演奏できる日を楽しみにしています。

最後になりましたが、今回、アピカ・フレッシュコンサートに出演される皆様、出演おめでとうございます。一人ひとり様々な想いで、このコンサートに出演されているのではないのでしょうか。その想いをそれぞれの音楽で表現し、伝えてください。皆様にとって素晴らしい舞台になりますようお願いしています。

フレッシュコンサートに寄せて

フレッシュコンサートは、昭和61年春、西脇市民会館中ホールを会場として始まりました。当時、音楽大学を卒業した人達には、大学で勉強してきても、現在よりも発表する機会も活動する場も少なく、卒業してこれから頑張っていこうとしている人達に演奏する場をもってもらいたい、という思いからでした。

その数年前に音楽大学を卒業していた私は残念ながら地元フレッシュコンサートに出演していませんが、演奏する機会が増えて、よかったと思ったことを覚えています。

最初は、西脇市出身者を対象として始まりましたが平成9年4月には新しく開館した市立音楽ホール「アピカホール」に会場を移しました。

〈アピカホールは、地元出身者で音楽系大学等を卒業する皆さんの今後の活躍を期待し、支援します〉として、現在は北播磨地域(西脇市、加東市、小野市、加西市、三木市、多可郡)出身の音楽系大学や学科(短期大学を含む全てのコース)を卒業の方を対象に開催されています。

コンサートはフレッシュな皆さんの緊張感と共に、

地元出身者が出演する場ならではの、あたたかい雰囲気もあります。毎回ご来場いただいで応援してくださるお客様がいらっしゃったり、出演者がその後、どんな風に成長しているのだらうと、活動を楽しみにしてくださることはとても嬉しいです。

フレッシュコンサートが始まった頃、運営委員の中で、何年か後に活動を続けている人達対象のコンサートを開けたらいいね、と話がでていたそうです。お客様達からの期待の声もあり、開館15周年を迎えた一昨年には、今までのフレッシュコンサートに出演し活動が続けている方達の中から希望を募りフレッシュコンサート20回記念コンサートが開催されました。

ホールを拠点に情報交換し活動している方々もあり、今後も活動が広がっていくことを期待します。

音楽大学の現状や卒業生の活動状況も、随分変わって来ましたが、これからも音楽系大学を卒業する皆さんの活躍を期待しアピカホールと共に支援していきたいです。そして多くの地元の方々会場に足を運んでくださり応援していただければ幸いです。

アピカ・フレッシュコンサート実行委員会 委員長 中辻史子

ヴァイオリンを弾いてみよう!

アピカ弦楽アンサンブル教室

ヴァイオリン ワークショップ (楽器体験) 開催!

弦楽器に興味はあるけど・・・触ったこともないけれど・・・。楽器がなくても大丈夫!
初めての方歓迎! 弦楽器の魅力に触れてください。

と き: 2013年8月4日(日)

と ころ: アピカホール

内 容: 1回60分程度

参 加 費: 1,000円

指 導 者: 藤井允人先生 (元大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター)

西山枝里先生 (西脇市出身 大阪音楽大学、同大学専攻科卒業)

対 象: 北播磨地域 (西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町) 在住の

小学1年生から高校3年生までの方ならどなたでも参加できます。

募集期間: 5月20日(月)~7月20日(土) <必着>

申込方法: 所定の申込用紙にご記入の上、アピカホールへ提出してください。(FAX可)

←ホームページからダウンロードできます。

そ の 他: 1回の定員は5~10人を予定しています。時間等の詳細は、申込締切後に
お知らせします。

申込・問合せ 西脇市立音楽ホール「アピカホール」

〒677-0015 西脇市西脇991

TEL: 0795-23-9000 FAX: 0795-23-9031

休館日: 毎週水曜日





オーストリア音楽の特質(第4回)

前回は、宗教の面からオーストリア音楽の特質を考えてみましたが、その残りの部分をお話ししたあと、今回から、音楽それ自体を通した考察に進んでいきたいと思います。

オーストリアの音楽家たちの素朴さ、無邪気さは、上部オーストリア(土地の高い山岳部)ないしは低部オーストリア(土地の低い平野部)の民衆的な音楽を、そのまま、彼らの音楽のなかに導入するという点にも見られます。

シューベルトは、交響曲第7(8)番『未完成』の第1楽章で、本物のレントラーをそのまま第2主題として導入するという、きわめて大胆な試みをおこないました。しかし、これと同じことは、シューベルトの先輩のハイドンやモーツァルトもおこなってしまして、特にハイドンは、そのさい、北ドイツの批評家から《芸術の引き下ろし》として非難を受けたのでした。モーツァルトの場合の一例として、ディヴェルティメント変ロ長調 K.287の終楽章を挙げておきましょう。ここで使われている主題は、南ドイツの流行歌『百姓女が猫を失くして、どこにいるのか見つからない』でして、さらにそのあとには、純正なヨーデルの主題まで登場するのです。ブルックナーの場合は、交響曲のスケルツォにおいて、上部オーストリアの民族舞踊の旋律が織り込まれることが多く見られます。例えば、『第1番』のスケルツォでは、粗野な農民の踊りが、『第2番』では、奔放なレントラー風の田舎舞踊が、『第3番』では、オーストリア

の地方舞曲が、主題やモチーフとして使われています。

これまでみてきましたように、オーストリアの音楽家たちは、純粹にムジツィーレンを楽しむ楽師的性格を持ち、哲学・思弁・文学・批評などとは無縁でした。ロマン派の大作曲家たちが、より多く意識の領域のなかで仕事を進めたのに対し、彼らは、与えられた環境のなかで、自然そのもののようにな意識に生きたように思われるのです。しかし、彼らは、むしろ、無意識界の住人であるがゆえにこそ、意識の世界の住人に比べて、より深くより根源的な深層の世界にまで降りることができ、そこから、人間の魂に刻まれた深奥のものを汲みとることができたのではないのでしょうか。

オーストリアの音楽の特殊性の第3は、非常に強い表現欲求の昂まりと、それを通して表される悲劇性です。

その典型的な例として、シューベルトの晩年の器楽作品を挙げることができるでしょう。私は、以前、「シューベルトの緩徐楽章」と題する論文を書いた折に、このことを指摘したことがあります(註)。ここでは、簡単に触れるにとどめておきましょう。

シューベルトの晩年の器楽の大作には、ある一定の表現上のパターンが存在します。それは、強と弱、あるいは弱と強との異常に鋭い対比を通して、感情の爆発的なクライマックスが築かれるということです。そして、不

思議なことに、一般に、優美で抒情的な曲想を持ち、情緒の静謐な表現が与えられるのが普通とされている緩徐楽章においても、このような激しい感情の盛り上がり、ほとんど例外なく見られるのです。

ひとつだけ例を挙げますと、X—Y—X—Yの形式をとっている交響曲第8(9)番『グレイト』の緩徐楽章で、2度目のXの部分(第160~266小節)に、激情の爆発の典型的なものが見られます。第226小節から、感情が徐々に高潮していき、第248小節でfffのピークに達し、絶望の叫び声にも似たイ短調の減7の和音でぶつりと鋭く途絶えてしまうのです。まるでカタストロフィ(大破局)が訪れたかのように。続いて3拍の総休止が置かれ、一瞬の間、真空状態が生まれます。そのあと、無限の重みを持った静寂のなかから、

弦がppで弱々しくピッチカートを奏し始め、続いて、チェロが同じく、打ちひしがれたように力なく諦めに満ちたメロディーを流していく……。

《深い絶望感の爆発》と、それに続く《諦念》の表明、もしくは、《彼岸への憧憬》。このような感情の流れは、1822年の『未完成交響曲』以後、死の年1828年に至る最後の6年間の、一連の交響曲、室内楽、ピアノソナタの緩徐楽章に、ほとんど例外なく表されているのです。

(註) 鶴川 真「シューベルトの緩徐楽章」
(音楽学会編『音楽学』第20巻 音楽之友社刊所収)

元同志社大学文学部講師(音楽学) 鶴川 真

西脇ロイヤルホテル

 Daiwa House Group®

兵庫県西脇市西脇 991 番地 〒677-0015
TEL.0795-23-2000 FAX.0795-23-8604

レストラン・ラフィネ

【朝食】 7:00~10:00
【ランチ】 11:30~14:30 (L.O.14:00)
【ディナー】 17:30~21:30 (L.O.21:00)
【喫茶】 10:00~21:30 (L.O.21:00)

和食処・織乃里

【昼】 11:30~15:00 (L.O.13:30)
【夜】 17:30~ (L.O.21:00)

詳しくはオフィシャルホームページで ▶▶ <http://www.nishiwaki-royalhotel.jp>



アピカホールの育成事業について

アピカホールは、平成8年7月23日に開館し、今年で17年目を迎えます。これまで、多くの市民の方々、ボランティアスタッフの支援により、運営されてきております。西脇市花を冠する「しばざくらコンサート」は、現在、122回の開催を数えており、多くの市民の方々に良質の音楽を提供してきました。世界最高のオーケストラであるウィーン・フィルの現役トップ演奏者のアンサンブルコンサートに代表されます良質の音楽の提供が、アピカホールの大きな取組みの一つと考えております。

さらにもう一つ重要なのが、現在も取り組んでいます小学生から高校生を対象とした音楽を通じての4つの育成事業であります。具体的には、①児童合唱団、②弘中孝先生とのピアノ・デュオ・コンサート、③中・高校生による管楽器・打楽器のアンサンブルコンサート、④弦楽アンサンブル教室で、この4つの事業ともプロの演奏家が関わっています。

札幌交響楽団事務局長の宮澤敏夫先生、東京音楽大学客員教授の弘中孝先生、そして元大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターで、現在、栗東市のさくらジュニアオーケストラアカデミー校長の藤井允人先生に、お世話になっております。三人の先生方は、お互いにお知り合いであり、当ホールに、質の高い音楽を提供するという共通認識を持って指導してられます。さらに、神戸を中心に活動されておりますライツ室内管弦楽団のソリスト百合花先生に、児童合唱団と混声合唱団の指導を月3回お世話になっております。

弦楽アンサンブル教室を指導していただいている藤井允人先生は、「教えることは自ら学ぶこと」と言われております。ご自身の感性や考えを押し付けるのではなく、子どもたちが、楽譜から作曲家の意図を理解し、自主的に音楽を表現することが大事との方針で、常に子どもたちと同じ目線で指導されております。そして、継続して取り組む中で、きっと新しい世界が発見できる。みんなで合奏を楽しむ中で、音楽の楽しみも発見できる。音楽を通して人間形成を図ることができると考えられております。私もアピカホールも、藤井允人先生の考えに共感しており、育成事業の指針として位置付けをしております。

そして、児童合唱団はソルフェージュや呼吸法、発声法の基礎を学びながら、ピアノ・デュオ・コンサートは、弘中孝先生とのマン・ツー・マン指導による演奏を通じて、管楽器・打楽器のアンサンブルコンサートは、フリー・トランペッターの講評を通じて、それぞれプロ演奏家の指導による自己研鑽を積む機会としております。

このアピカホールの教室、コンサート等で学んだ子どもたちが、優れた演奏技量とともに、豊かな人間性を備えた人材に育ってもらえればと思っております。アピカホールは、育成事業を通じて、西脇に住んでいても都市に負けない音楽環境を、次代を担う若い世代に提供できるようこれからも取り組んでいきたいと考えております。

是非、一度、アピカホールにお越しください。お待ちしております。

館長 大嶋明志

総合建設業 一級建築士事務所
国土交通大臣認定鋼構造物製作工場
あんしん住宅瑕疵保険届出事業者



WAKI CONSTRUCTION CO.,LTD.



☎677-0018 西脇市富田町36
電話 0795-22-5651(代)

KOBE
STYLE
Kitchen & Reform

www.kobe-style.co.jp

〒658-0032
神戸市東灘区向洋町中6-9 TEL:078-857-8424
神戸ファッションマート10F FAX:078-857-8425

アピカ弦楽アンサンブル教室生 募集

～ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス～

対象：北播磨地域（西脇市・三木市・小野市・加西市・加東市・多可町）在住
で弦楽器を習っている小学4年生～高校3年生。20人程度。
※鈴木ヴァイオリン（ヴィオラ、チェロ）教本第1巻を終了程度。
※4年生未満の方はお問い合わせください。

開講式：6月23日(日)

申込締切：5月20日(月)

申込方法：所定の申込書に必要事項を記入の上、アピカホールへお申込みください。

練習：3回/月

※6・8・11・3月は4～5回程度実施予定。

参加費：3,000円/月

指導者：藤井允人先生（元大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター）
西山枝里先生（西脇市出身、大阪音楽大学、同大学専攻科卒業）

内容：藤井先生による合奏練習、
西山先生によるソルフェージュ、
パート練習と合奏練習。
年に1度コンサートを開催。
(平成26年3月30日(日)予定)



第1回ミニコンサート 2013年2月11日



アピカ児童・混声合唱団員 募集!

児童合唱団

対象：小学1年生～6年生
練習：月曜日/月3回 18:00～19:00
参加費：2,000円/月
内容：ソルフェージュ（音符の書き方、読み方、視唱、聴音などの音楽の基礎）を取り入れながら、呼吸法や発声法を学びます。

混声 Coro アピカ

対象：中学生～一般
練習：月曜日/月3回 19:30～21:00
参加費：3,000円/月
内容：毎回、百合花先生の指導のもと、呼吸法と発声法の基礎練習から始まり、ホールの響きを楽しみながら練習します。

対象：西脇市、小野市、加西市、加東市、多可町在住の方及び
西脇市在学・在勤の方。

指導者：百合花先生
ピアノ：秋山麻子先生

募集：随時

申込方法：所定の用紙に記入の上、アピカホールまでお申込みください。

音楽の 話・輪・和・Wa

スポーツと音楽
そして私
足立 幸永

私にとって音楽は全く世界の違う分野であり、未知の世界である。失礼ながらその深さも味わいもよくわからない。しかし遠い昔、結婚する相手の条件の一つに「ピアノが弾ける人」という項目をあげていた。幸いにして、家内はその条件を満たしている。時々ピアノも弾くし、娘もピアノを習っていたのでピアノの音が響く生活空間に自分があるの少し心地良い。ただ何年前に子供のピアノ発表会で「いびき」

を奏でてしまった時は、さすがに家内の頭から湯気が立ち上がったという苦い経験もある。

この様に、わたしの生活の中で自ら音楽をONにするのは、せいぜい車の中ぐらいであるが、スポーツとの関連をみてみると、選手達は試合に挑む時や宿舎の部屋では、さまざまな思いでイヤホンをつけ、お気に入りの音楽を聴きながら、高ぶる精神をリラックスさせたり、成功のイメージづくりをしながら、淡々と心の準備をしている。もっとレベルの高いオリンピックでも良く見られる光景である。そんなことを考えると「音楽とスポーツ」は、相反しての存

在では無く、共存し合っているとも考えられる。いや、音楽という広い器の中に、スポーツに限らずいろいろな世界が包まれているのかも知れない。そう考えると、改めて音楽の力というものはとても偉大だ。

私自身もお酒の席でしっかりマイクをにぎり、その「音楽」の力を借りながら、人間関係を深める有意義な時間を過ごさせてもらっている。

体育人間の私も気がつけば、音楽に寄り添って生活している。今度家内を誘って、アピカホールに足を運んでみたい。前の日にしっかり睡眠をとって…。

(西脇工業高校陸上部監督)

編集後記

ホワイエに、以前からずっと気になっていた1枚の絵があります。皆様は、その絵画の中の素敵なグラマーマン美女をご存じですか？絵の中の美女の職業やどんな人物なのか、気になってきました。それは、横尾忠則氏とマーク・コスタビ氏のコラボレーション(＝共同制作)の『非対称の構図』というタイトルの絵です。また、待ち時間に観てくださいね。

春ですね。梅と桜のコラボが見られそうです。桜より早咲きの梅は、花そのものは小さめで、桜のような派手さはありませんが、春到来を告げてくれる花です。春になったら・・・アピカに音楽を聴きに出かけてみませんか？アピカホールは、残響音がちょうどよく、音から光のあったかいシャワーのようなものを感じます。

(Green)

西脇市 岡之山美術館 TEL.0795-23-6223

「西脇市岡之山美術館 ポスタークロニクル 1984-2012」展

アンコールエキシビジョン
4月2日(火)～6月28日(金)

開館時間 午前10時～午後5時(入館4時30分まで)
入館料 大人310円(260円)高・大学生210円(160円)
小・中学生110円(80円)(20名以上団体割引料金)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・祝日の翌日 ○4月30日開館

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/okanoyama-museum/>
ホームページにも掲載していますので是非ご覧ください。
ブログ「美術館日記」も訪問ください。

●アトリエ個展シリーズ

創作活動を日常とする作家たち

VOL.1 ●梅田 邦彦展 (写真)
4/2(火)～21(日)

VOL.2 ●竹内 可充展 (洋画)
4/23(火)～5/12(日)

VOL.3 ●後藤 清美展 (洋画)
5/14(火)～6/2(日)

※アトリエシリーズは無料

「丹波・西脇作家ジョイント」展
6/4(火)～6/28(金)予定

西脇市民会館

TEL.0795-22-5715

休館日 火曜日(祝日の場合は翌日)

きて★みて★きいて!

「あなたが主役フェスティバル」

とき 7月14日(日) 9:30～16:30

ところ 市民会館 全館

内容 ステージ発表、NSKのど自慢、手づくり趣味の市、100金遊び市(金魚すくい・ヨーヨーつり・わたがし・くじびき他)

※出場者、出店者募集中! 詳しくは市民会館までお問い合わせください。

～山田洋次監督50周年記念作品～

映画 「東京家族」 上映会

とき 5月12日(日)

①10:00～

②14:00～

ところ 市民会館 大ホール

全席自由

入場料 一律 800円
(当日1,000円)



※当日(母の日)、各回先着100名様に「カーネーション」をプレゼントします。

人形劇 「ピノキオ」

とき 6月1日(土) 14:00～

ところ 市民会館 大ホール

全席指定

入場料 一般 2,000円
中学生以下 1,000円
おやこペア 2,500円
(当日各500円増)



※未就学児は保護者同伴でお願いします。
※4歳以上は有料(4歳未満はひざ上鑑賞に限り無料)

※ホームページにも掲載していますので是非ご覧ください。

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/shiminkaikan/> E-mail: shiminkaikan@ever.ocn.ne.jp

アピカホール 催しガイド 4月～7月

休館日：毎週水曜日（祝日の場合翌日）

月/日（曜日）	催 物 内 容	時 間	入 場 料 等	主 催 ・ 問 合 せ	特集記事
4/6（土）	西脇ロータリークラブ創立50周年記念式典	15：00～	関係者	西脇ロータリークラブ ☎0795-22-3901	
4/21（日）	第22回 「アピカ・フレッシュコンサート」	15:00～	1,000円	アピカホール ☎0795-23-9000	P4
4/27（土）	第2回芽吹きコンサート	14：00～	大 人 1,500円 高校生以下 1,000円	西脇市いけばな協会 ☎0795-23-6234	
5/12（日）	～山田洋次監督50周年記念作品～ 映画「東京家族」上映会	会場：西脇市民会館 ①10：00～ ②14：00～	全席自由 一 律 800円 （当日1,000円）	市民企画委員会 ゼロ 西脇市民会館 ☎0795-22-5715	P11
5/25（土）	グループ・アンダンテ結成20周年記念コンサート	14：00～	無料	グループ・アンダンテ代表 川瀬博子 ☎0795-23-3270	
5/26（日）	先生と生徒のLittle Concert	12：00～	関係者	熊原幹忠 ☎0795-23-1671	
6/1（土）	人形劇 「ピノキオ」	会場：西脇市民会館 14：00～	全席自由 一 般 2,000円 中学生以下 1,000円 おやこペア 2,500円 （当日各500円増）	市民企画委員会 ゼロ 西脇市民会館 ☎0795-22-5715	P11
7/5（金）	第123回 しばざくらコンサート 「ベルリン・コンツェルトハウス室内オーケストラ」 ～日下紗矢子/コンサートマスター&ヴァイオリン独奏～	19:00～	一 般 3,000円 高校生以下 1,500円	アピカホール ☎0795-23-9000	P2-3
7/14（日）	第15回記念 きて★みて★きいて！ 「あなたが主役フェスティバル」	会場：西脇市民会館 9：30～16：30	大・中ホール 無料 そ の 他 有料	市民企画委員会 ゼロ 西脇市民会館 ☎0795-22-5715	P11

チケット発売開始 4月13日（土）

第123回しばざくらコンサート

「ベルリン・コンツェルトハウス室内オーケストラ」

～日下紗矢子/コンサートマスター&ヴァイオリン独奏～

と き 7月5日（金） 午後7時開演（午後6時30分開場）

入場料 一 般／3,000円 高校生以下／1,500円

- ★主催者の都合により変更になる場合があります。内容についてのご質問は、各主催者までお問い合わせください。
- ★アピカホール主催の有料コンサートにご来場のお客様に限り、アピカ地下駐車場の3時間無料駐車サービス券をお渡しします。

■編集：ポナンタゴン編集委員会
■発行：西脇市立音楽ホール「アピカホール」
ポナンタゴン：こんにちは
（エスぺラント語）

〒677-0015 兵庫県西脇市西脇991
TEL(0795)23-9000 FAX(0795)23-9031
<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/apikahall/>
E-mail: apikahall@ever.ocn.ne.jp

このガイドは2013年3月1日現在の資料を元に編集しており、内容は変更される場合があります。無断での転載を禁じます。

アピカホール ポナンタゴン 検索 ←ホームページでもご覧いただけます。